

## 2年（家庭科）衣服の表示学習解説（その2）

### 取り扱い（絵）表示について

取り扱い（絵）表示は「手入れの方法」を示しています。衣服は、1つ1つ手入れの方法が違います。衣服を間違った方法で手入れするとどうでしょう。お気に入りの衣服は、長く着たいですね。また、大人になると、成長期の君たちと違って、体のサイズが大きく変わらないので、同じ衣服を長く着れるようになります。サイズが合わなくなった衣服も別の人が着ることが出来れば、資源の無駄になりません。適切な方法で手入れをすれば、衣服は長く着られるのです。取り扱い（絵）表示を覚えて、衣服を適切に手入れして、大切に活用しましょう。

授業がスタートしたら、取り扱い（絵）表示のテストをします。理解しておきましょう。練習問題を出しますので、取り組んでみましょう。

### 練習問題（新 JIS 記号）

次の説明文を読み、正しい取り扱い（絵）表示を記号で書きなさい。

- ①液温は、60℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる。
- ②液温は、30℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。
- ③日陰での平干し乾燥がよい。
- ④ぬれつり干し乾燥がよい。
- ⑤つり干し乾燥がよい。
- ⑥酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白はできない。
- ⑦塩素系及び酸素系漂白剤による漂白ができる。
- ⑧アイロン仕上げ処理ができる。（底面温度は150℃を限度とする。）
- ⑨石油系溶剤でのドライクリーニング処理ができる。
- ⑩ドライクリーニング処理ができない。
- ⑪ウェットクリーニング処理ができる。（弱い処理）
- ⑫洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。（低温乾燥）